

平成 30 年度第 3 回千葉市学校教育審議会における主な意見（要旨）

第 3 回千葉市学校教育審議会における「市立高等学校改革の方向性について」の意見等は、次のとおりです。

なお、整理にあたっては、文章の分割や簡略化、同種の意見の統合等を行っています。

No.	主な意見
1	両校とも素晴らしい試みをしている。しかし、発表後の質疑応答やディスカッションもできる能力の育成とあるが、アウトプットに関することが多い。今の学生を見ていても、インプットが足りないように感じる。学生の底上げをするためにも、読解力を身に付けなければならない。そのためには読書量が必要である。
2	答申を出す時に、どの程度具体性を持たせた内容を答申するべきなのか。
3	外国人講師等の人に関してはかなり細かく出ているが、施設環境についてはほとんど触れられていない。見方を変えると今ある器をそのまま使って、中身だけ変えるというような意味にもなってしまう。
4	グローバル・リーダーとして活躍できる人の評価の仕方として、資料に 4 年制大学現役合格者数で示しているが、そのようにはならないのではないかと。評価の仕方をもう少し検討しておかないと、今後の方針もたたないのではないかと。
5	新しいことを行うためには、教える側の教員も世界を見渡して研修しないといけないと思う。
6	今回の素案を見ると、両校の違いがなくなったようである。市立千葉でグローバル人材という言葉が出ているが唐突感がある。英語は市立稲毛に任せて、市立千葉は理数科と他の教科がどうやって有機的につながっているかということ文科系理科系の子供たちに合わせて考えさせることが、世界観を広げるグローバルな価値観を見出すためのものではないかと思っており、市立千葉の良さが半減したようである。
7	市立千葉は理数系に重きを置いているが、市立稲毛は英語に重きを置くということであれば面白くない。市立稲毛においては、国際的なグローバル・リーダーということで教育方針を立てるのであれば、ディスカッションだけでなく社会性とか政治性など、発展的、魅力的なコミュニティを構築できるような形になるとよいと思う。
8	「3 市立千葉高等学校の改革について」の(2)①のところには、「これから」の前に「学校全体で」、「全教科で」又は「全学年で」という文言を入れた方がよい。
9	学年が全て同じというのではなく、特進クラスや海外の大学を希望するクラスなど、ある程度区別をしてもよいのではないかと。
10	千葉市はどのような教育を目指すのかという人材育成のビジョンが必要である。